

第4回 豊丘村リニア対策委員会

平成28年 5月18日(水)
午後7時～ 保健センター2F

1. 開 会

夙神総務課長

2. 村長あいさつ

いよいよリニアの工事につきましても、本格的な仕事が始まっていくという流れになり、坂島工区につきましても契約の手続きが始まりました。これから工事が始まってくると、予測もしなかった問題が随分出て来るかと思われる。

これからJR東海、中部電力、工事を受注した業者さんにあっても、是非とも村民の皆さんの意見を聞いていただいて、安全な工事を手掛けていただきたいと思います。

本日の会議でもこれからいろいろな説明があるかと思いますが、皆様の忌憚のない意見をどんどん出していただき、実りある委員会にしていいただければ幸いですので、よろしくお願いいたしたい。

3. 会長あいさつ

毎日のように様々な課題が出て来るかと思われる中で、我々もいろいろと検討していかなければならないと思うことが多々あると思う。

今日も大勢の委員さんにご出席いただいているが、どうか積極的に発言していただきたいと思う。各種団体から出ているからと遠慮しない様に、今日はJR東海、中部電力、長野県の方も見えておりますので、忌憚のない意見をよろしくお願いしたい。

4. 事業関係者あいさつ

長野県 リニア整備推進事務所 栗林調整課長より

JR東海 中央新幹線推進本部 澤田部長より

中部電力 用地部 永井リニア関連送変電グループ統括部長より

5. 協議・報告事項

(1) JR東海より

○リニア中央新幹線事業の進捗状況等の説明

- ・伊那山地トンネル（坂島工区）の契約手続き
- ・地質調査（ボーリング等）について
- ・伊那山地トンネルにおける水収支解析について
- ・水資源に係る調査について
- ・豊丘村内の発生土置き場候補地
- ・今後の予定

○質疑応答

1) 発生土置き場計画について

Q. 発生土置き場候補地について、協議の内容をもう少し詳しく説明してほしい。また、今後のスケジュールを示してほしい。

JR東海

A. 現在3カ所の候補地の環境調査と並行して、概略図を作成し、地元、地権者の方へ説明している状況である。本山地区は地権者への説明が完了し、詳細設計を実施する段階となっており、夏頃から地質調査を行う予定でいる。戸中地区は5月末から地権者の方へ説明したいと考えている。源道地地区は4月中旬頃から地権者の方へ個別に説明している。

今後のスケジュールは本山地区について秋頃、詳細設計で出来あがった図面を再度地権者にお示し出来ればと思っている。その後に行行政協議を実施したいと考えている。

Q. 発生土置き場の環境調査について、現時点で問題になるような事例はありませんと言っている。源道地地区は、県と作成したハザードマップ内で、警戒区域内に指定されている場所への盛土を考えているというが、危険と指定された場所へ環境調査で問題がないから発生土を置くというのはいかがなものか。地元へもう少し配慮した対応をしていただきたい。

JR東海

A. 候補地の環境調査については、これまで調査を進めてきた中で、動植物などに対し特別な措置を施さなければならないものは無かったということである。環境調査だけで発生土置き場に問題がないと言っているのではない。今後の計画の具体化のために、地質調査等をお願いしているのでご理解頂きたい。

源道地地区がハザードマップに掲載されている事や、保安林であることは承知している。その事も含めてしっかりと計画していきたいと考えている。

Q. 発生土置き場の関係で、保安林については県が指定して初めて保安林となるが、一度伐採盛土等をして保安林解除された所には、再度保安林指定ができないと言う事が決まっている。保安林について今までは、指定されている為に県である程度は面倒を見てもらっていたが、それが外れることにより今度は地権者がその責任をすべて負う事になるのではないか。

JR東海

A. 保安林解除の申請を行うには、木を伐採し整備することで、保安林の指定がなくても安全が確保されるとの判断が必要であり、そのうえで初めて解除されるので、発生土置き場として整備したとしても、安全が確保されることをご理解願いたい。

Q. 発生土置き場について地権者として、発生土置き場の土地を返してもらった後に、今後の心配を、JR、村、地権者の3者でしていかなければならない。そんな事になるくらいなら最初から、JRが自ら埋めたのだから20、30年は、JRで管理しますというぐらいの気持ちはあるのか。

JR東海

A. 発生土置き場については、埋め立て後には指定された地目にて、地権者にお返しするよ

うに考えている。また、お返しする時にはしっかりと引継をしたいと考えている。水路等については管理者に構造物等を引き継いでいただくよう考えている。

- Q. 源道地の発生土置き場について決定しているようだが、埋め戻すのには大きな堰堤を入れるのか、それとも小さな谷止めを入れて階段状の物をいくつも作るのか。沢を含めた埋め立てであるので、大雨が降った時に、下流の人家へ影響を及ぼさないようにするには、堰堤の下に沈砂池を作る事も考えられるが、どのような方法で実施するのか。また、要望があれば埋戻した跡地を、農地として利用できるような事も考えていただけるのか、具体的な案があればお答え願いたい。

JR東海

- A. この3カ所については、あくまでも候補地と言う事で決定はしていない。決定したときに、環境影響も含めて公表させていただく事になる。現在はまだ候補地と言う事で地権者の方にお話しをしている段階である。

現在ご説明させていただいている計画図については、まだ細かな設計は行っていない状態であり、大まかな埋め立て方法と、下に堰堤を入れる事ぐらいを表示した図面である。これから詳細な図面を作成する中で、必要により沈砂池、調整池を計画図面に入れ、地権者の方に説明していきたいと考えている。

跡地利用について、基本的に農地は農地、山林は山林でお返しすることになる。農地の場合、そのままでは農地として利用できないので、表土に耕土を入れるような対応をしてお返しする。山林については植林をしてからお返しする事になる。ご質問のような要望にお応えしない訳ではないが、今現在村内の3カ所については、当初の地目でお返しするように説明させていただいている。

- Q. 小園に住んでいるが、4月に地域の方々に勉強会を開催していただき、やはり心配だなと感じた。小園の方々に署名を集めて、村長に考え直してもらえないかという事を行ったが、その事について村長のお考えをお聞きしたい。

豊丘村長

- A. 発生土置き場選定の流れは、最初にJR東海で工事を行うにあたり、発生土の置き場の候補地となる場所を、県へ出させていただきたいという要請があった。この候補地については当然ながら、地元や地主の同意を得るというものではなかった。源道地については地元の自治会から候補と出てきたわけだが、村として選んだ理由としては本坑出口に非常に近く、ここが発生土置き場となれば、土砂の運搬車が村中を走り回ることが少なくなり、子供たちの通学への影響についても、大きく緩和されるのではないかという考えがあつての事である。候補地として挙げたことにより、JRとしても動き出した訳であり、熊本地震により心配する意見も余計に高まったとは思いますが、村としても苦渋の選択をした事をご理解願いたい。

2) 工事用車両通行及び改良計画について

- Q. 工事車両通行により、事故等で通学に支障を来さないように対処していただきたい。不備等の情報をいただければ、PTAとしても対応していきたいと考えている。

JR東海

A. 工事に際しては何れかの道路を通ることになる。工事用車両が何処を通るのかは行政との協議を踏まえて計画していきたい。例えば通学時間帯には工事車両を通さない、歩道を整備する等、何らかの対応をしていきたいと考えている。

Q. 林道大島虻川線に発生土を運ぶ工事車両が、通行できるのか心配となった。道幅も狭く落石も多いので、待避所を出来るだけ多く設けていただき、通行への支障が無いように対応していただきたい。

JR東海

A. 林道大島虻川線について、幅員が狭く落石も多いことは認識している。整備はしなければならぬと考えている。改良については道路管理者と協議する中で、危険の無いように対応していきたい。

Q. 未だ工事車両の運行状況等の話が明示されていない。林原木門地区は中間地帯にあるので、坂島・戸中工区どちらに行くにも必ず通過する場所となる。通行する場所が分っていたら明示していただきたい。

JR東海

A. 工事車両のルートは道路管理者である豊丘村及び長野県と協議をしているところである。決定次第、説明させていただきたい。

Q. スケジュールの中で、戸中非常口の道路改良工事については、H29年度春から始めてH29年の秋には、既にトンネルの掘削工事を始めるとあるが、期間が短すぎるのではないか。地元の声を聞きながら、じっくりと進めることが必要と感じる。また、工事車両の通行については、中部電力の変電所の関連もあるので両社の調整はとられているのか。

JR東海

A. 道路改良等準備工事については、天竜川から坂島に行く部分に、戸中へ行く部分も含まれるとの解釈でお願いしたい。坂島への道路整備をH28年度秋から実施する中で戸中付近についても必要な箇所の整備を進めていきたい。また、壬生沢についてはH29年度の春頃からの道路改良を考えている。

中部電力との協議については、細かな調整をしていく。また、工事車両の通行台数は、環境影響評価書に最大値で記載してある。現在予定している本山地区に発生土置き場が決まれば、通行台数は少なくなってくると考えている。

Q. 道路の関係になるが、出来るだけ早く地元にも改良計画を示していただきたい。また、改良に伴い全面通行止めする事も多くあると思うが、その対応として大湍沢から坂島へ抜ける小枝線の、全面改良をしていただくように強く要請したい。また現在県道長沢田村線のヨキトギ地籍に、一部未改良の区間があるので、その区間についてもリニア関連で使用が予想される区間であるので、早急な改良の対応をお願いしたい。

JR東海

A. 工事用道路は出来る限り、全面通行止めにならない様に片側通行止めで対応できるようにしていきたいと考えている。全面通行止めになるような場合は、事前に周知をしっかりとしていきたいと考えている。

長野県

A. 県の未改良区間の話もあったが、まずJRより何処を工事車両が通るかを聞いたうえで対応していきたいと考えている。

3) 水収支解析及び水資源関係について

Q. 水収支解析により虻川、壬生沢川の水が減るという結果が出ているが、これはトンネル湧水が発生するためだと思う。トンネル湧水をどこに流すか教えていただきたい。最終的には天竜川へ流れると思うので、その手前で河川が増水する事を心配する。また、トンネル湧水の中に有害物質が流れ込まないような配慮もお願いしたい。

JR東海

A. 工事中はトンネルが繋がっていないため、坂島・戸中非常口は虻川に、壬生沢本坑は壬生沢川にトンネル湧水を放流する事を考えている。壬生沢川は水量の問題もあるため、県と十分に協議していきたいと考えている。工事完成後はトンネルが繋がるため、高架橋を経由してすべてのトンネル湧水を天竜川へ放流する事を考えている。

トンネル湧水の有害物質は、発生土が水に溶け込んで生じるため、発生土を確認すれば安全が確保できる。発生土は工事ヤードで検査を行い、重金属等の有害物質が含まれていない事を確認して搬出するので、安全を確保出来ると考えている。

Q. 虻川及び壬生沢川の水が減少するという事で、代替案はあるようだが実際に工事をする事によって流量が減ってしまっては困る。流量を確保してもらうのが地元としての要望であるが、JR東海としてはどのように考えているか。

JR東海

A. 虻川・壬生沢川について、水収支解析より流量が減少するとの結果が得られたが、これはあくまでもトンネル工事に際し、何の対策もしない場合のものである。実際にはその場所にあった対策を行っていくので、減少幅は軽減されるものと考えている。万が一減少した場合にも、水資源の調査結果を基に対応させていただきたいと考えている。

Q. 工事中にはそれぞれの非常口等から湧水を処理し、その後については高架橋を利用して水を持っていくという説明だったが、全ての湧水を天竜川へ運んでいくという事なのか。

JR東海

A. 湧水としてトンネルに出てきた水について、天竜川まで持っていく計画でいる。

Q. 地元としては流量が減ってしまっては困る。あくまでも減らない方法で実施してもらおうよう要望する。

JR東海

A. トンネルを掘っていく中で、いかに地下水への影響を軽減するか、環境影響評価書にも記載しているし、伊那山地の水収支解析においても、どのような対策ができるか記載させていただいている。出来るだけ地下水への影響がないように対策を講じながら工事を実施していきたい。

Q. 福島区では前々から湧水が枯れるのではないかと、とても心配をしている。事前の代替水

源の確保については何度もお願いしているがその後の進捗状況について、ご報告していただきたい。

JR東海

A. お示ししていただいた地図を基に、区長さんと共に地区内の現場を確認させていただいている。今後それを基に調査していきたいと考えている。

Q. 実際の調査についてはいつごろまでに完了するのか。工事が始まって水が枯れてからでは遅すぎると思うが。

JR東海

A. トンネルの掘削工事が始まる前には調査を完了させて、どの様に対策していくかご相談させていただきたいと考えている。

Q. JR東海より、以前にもトンネル工事が地区内に達する前に、代替水源の確保をしていただけるとの話をしているが、それでよろしいか。

JR東海

A. 環境影響評価書に記載されている高橋の式のエリア内の水源については、検討をしていかなければならないと考えている。

Q. 地質の状況について地質が縦に割れているため、トンネルを掘っていけば当然として、水枯れは起こると感じられるが、この図面については単純にそのような判断として宜しいのか。

JR東海

A. 伊那山地トンネルは主に安定した花こう岩を掘っていくため、地質は安定していると認識している。途中には断層があるが、水収支解析は断層を考慮して予測計算を実施している。断層付近を工事する際には、地形にあった対策を講じていく。

Q. トンネル湧水の処理で、天竜川へ持っていくとの話があったが、大鹿から長い距離になる。途中で壬生沢川へ流すなどの考えはお持ちなのか、かなりの長い距離となるのでそれが本当に得策なのか。

JR東海

A. 現在の計画は、大鹿から豊丘への伊那山地トンネル約 15kmのトンネル湧水は、天竜川に放流する事を考えている。

4) 労務者教育について

Q. トンネルを順調に掘り進むと、一日あたり 5m進むとお聞きした。交代制で工事を進めていく中で、各地から色々な方々が集まって来られるかと思う。豊丘村の事情をよく知らない方が集まり、地区に迷惑を掛ける事が心配される。作業員の宿舎についてもしっかりと統率を取っていただいて、地域に迷惑のかからない様にさせていただきたい。

JR東海

A. 治安への影響を心配されてのご質問だと思う。JRとしてもしっかりと請負会社の社員教育をしていきたいと考えている。

宿舎については、請負会社が中心となって決定するため、請負業者が決定次第、村を窓

口にご相談させていただきたい。

地元の方が一番心配されるのは、発生土運搬車両の通過だと思われる。工事車両にはリニア用の工事車両である事を明示し、安全運転には十分に気を付けさせる。また子供の通学についても、安全を確保できるようルール作りなどを徹底して、住民の皆様に迷惑を掛けないようにしていきたいと考えている。

5) その他要望について

Q. リニアに乗った時の事やリニアの音なども全然知らないので、音のデータを提供していただければ有難いと思うが。

JR東海

A. リニアがトンネルを通る時など、当然に音は発生するが、音を録音してきて再生することで、うまく再現できるのか疑問がある。今後に向けて検討させていただきたい。

(2) 中部電力より

○リニア中央新幹線への運転用電力供給事業の進捗状況等の説明

- ・変電所位置、送電線ルート案
- ・28年度のスケジュール案（変電所・送電線）
- ・自主環境調査について
- ・通過地区地元説明状況

○質疑応答

Q. 事業規模を考慮して自主環境調査を行う前向きな姿勢は評価できる。調査項目中の景観調査はどのように実施するのか。

中部電力

A. 景観調査とは観光資源の重要な視点場からのモニターシュを作成して、景観の様子を評価することである。景観対策としては、鉄塔は通常亜鉛メッキなのでピカピカするところを、光沢を抑えたり、山の中では茶色に塗装するなど景観に馴染むような対策を行うという意味である。その辺りも、役場や地元の意見をお聞きしながら対策を行っていきたい。

Q. このリニア対策委員会でもそのような意見を聞く場としてほしい。先ほど説明のあった、130mを超過する鉄塔はヘリコプターなどの運行に影響することから、色にも規制があるのではないか。

中部電力

A. 先ほど、景観対策について色のことだけお話ししたが、中央アルプスを望んだ時に手前の山の稜線を出ないように、ルート選定を行っている。ただ今、ご質問のあった航空法による色の話だが、航空法上60mを超える鉄塔は原則赤白塗装または航空障害灯を設置することとなっており、近くにそれよりも高い山があったり、別の工作物に赤白塗装などの対策がなされておれば除外できることになっている。赤白塗装や航空障害灯の設置につきましては、航空局との調整で決まっていくので、今後行政と調整していくことになるが、これまでの経験から、赤白でなく航空障害灯で対応したいと考えている。

Q. 130mの鉄塔は、てっぺん公園からみて他の鉄塔と比べて高く見えるか。

中部電力

A. 既設の南信幹線は80m～90mでそれに比べると30m～40m高いので、少し高く見える。

自主環境調査を行うに至った経緯は、広範囲にわたる事業規模ということ、JR東海がアセスを行っていることなどを総合的に判断した結果、実施することとした。また、景観を調査項目としたのは、法や条例などでは高い工作物を景観調査の対象としており、今までの経験上対象項目として評価しているためである。

Q. 環境調査を実施したからといってできてしまうものは仕方がないというものでなくて、地元の意見をくみ上げながら事業を行っていくという企業姿勢を期待したい。

中部電力

A. 地域のご意見、有識者のご意見をお聞きしながら進めていきたい。

(3) 市澤委員より

○豊丘村リニア対策委員会からJR東海への情報提供の依頼について

・伊那山地の工事業者の公募が始まった事により、これから村内のリニア工事が始まっていくわけですが、実際にトンネル掘削工事はどのような地質構造の中で行われるか、課題や問題点はどのような事があるか、調査資料に基づいた考え方を当委員会に提示してもらおう事が必要と考えて、JR東海への情報提供の依頼について会長へ文書にて提案した。

①村内でのボーリング調査について

②掘削土の処理計画について

③トンネル掘削工事に伴う水量変化について

⇒JR東海としても当対策委員会からの情報提供の依頼であれば、出来る限り対応していただけるとの事なので、当委員会より情報提供を要望する事を確認した。

6. 意見交換（全体を通しての質疑応答）

・先程水の関係で質問した訳だが、大鹿方の地盤がどのような物なのかが解りづらい、それが坂島坑口に出て来るのでそこら辺についても、次回の説明会にでも説明していただきたいと思う。先日の新聞で、上野原・大月でも減水があったと報じられていた。JR東海としてはどのように対応しておられるのか、次回の委員会にでも説明していただきたい。

JR東海

大鹿村での土質やリニア実験線の水枯れ対策について、お答えできることについては次回説明させていただく。

・自然由来の有害物質を懸念されているのかと思われるが、そういう物が実際に埋められてしまうと、水に溶け込んだり地表面に出てきたりしてとても危険かと思われる。

村内にJR東海、中部電力と2カ所の変電所ができるわけだが、大雨により雨水が既存の河川に流れると言う事で心配される面も出て来る。お互い其々に連携を取り合ってください、より良い方法で対処していただくようお願いしたい。

また源道地の話になってしまうが、埋め立てた場所に変電所の雨水が流れ込む、とてもア

ンバランスと感じるので、そこら辺についてしっかりと対処していただきたい。

中部電力

中電の変電所には、調整池を造って大雨等に対応していきたいと考えている。また水が流れる場所については、JRの工事の排水先とは違う北側の佐原川への排水となる。

JR東海

JRの変電所は果樹園の中になる。既に雨水が斜面を流れている場所であり、大きな問題は生じないと考えているが、排水計画等について検討を進め、計画が固まり次第ご説明していきたいと考えている。

7. 閉 会

○会長より

本日は長時間熱心なご意見ありがとうございました。又県、JR東海、中部電力の皆様におかれましては、お忙しい中おいでいただきご説明ありがとうございました。

本日はこれで終わりにしますが、これから長期戦となると思われます。新聞等に色々な話題が出ると思いますが、そのような事にも興味を持っていただき、また次回の委員会へ参加していただければと思います。本日は大変にご苦労様でした。